

トマト（夏秋被覆栽培）の病害虫の発生状況（5月中下旬）

1 灰色かび病

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図1）。多湿条件になると発生が多くなりますので、換気を十分に行ってください。

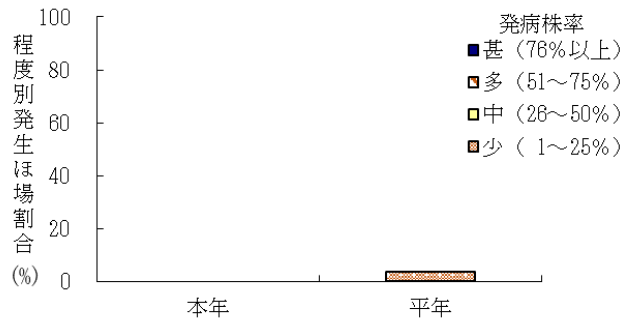


図1 灰色かび病の発生状況

2 葉かび病

巡回調査では、発生は確認されませんでした（図2）。今後、梅雨入りすると多湿条件により発生しやすくなるので、換気を十分に行ってください。抵抗性品種を作付けしているほ場でも発病がみられた場合には、葉かび病かすすかび病かを確認し、適切な薬剤を選択して防除してください。

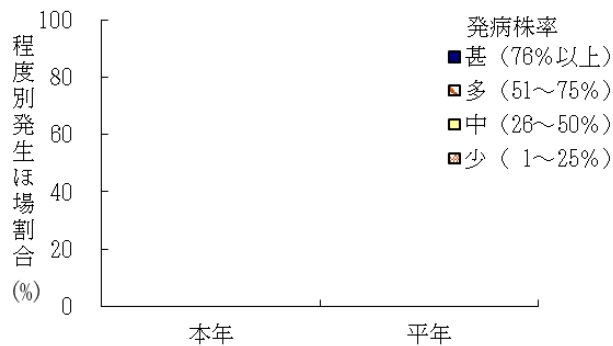


図2 葉かび病の発生状況

3 アブラムシ類

巡回調査における発生ほ場割合は、平年並でした（図3）。定植期の薬剤処理が定着しており、急激に増殖することはないと考えられますが、ほ場をよく観察し、発生が多くなった場合には、速やかに防除を実施してください。また、アブラムシ類は、CMVなどのウイルス病を媒介するので注意が必要です。

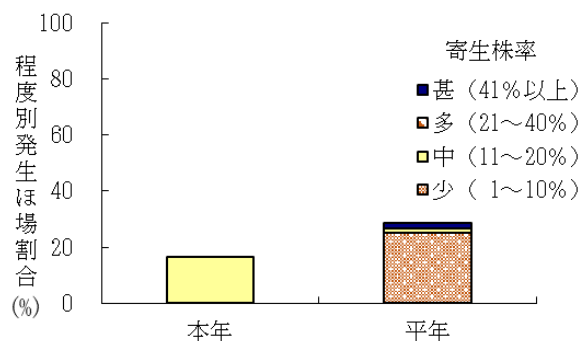


図3 アブラムシ類の発生状況

4 コナジラミ類

巡回調査では、寄生は確認されませんでした（図4）。県内における主な寄生種は、オンシツコナジラミですが、寄生種がタバココナジラミの場合は、着色異常果の発生やトマト黄化葉巻病（TYLCV）を媒介するので、注意してください（下記の注意が必要な病害虫を参照）。両種ともまん延すると防除が困難なので、低密度時から防除を実施してください。

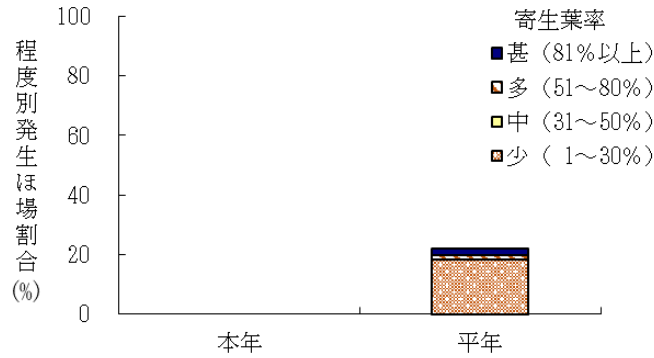


図4 コナジラミ類の発生状況

5 ハモグリバエ類

巡回調査では、寄生は確認されませんでした（図5）。まん延すると防除が困難なので、発生が見られる場合には、低密度時から防除を実施してください。

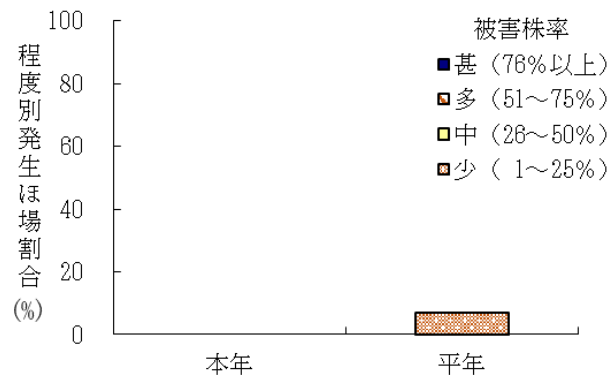


図5 ハモグリバエ類の発生状況

6 オオタバコガ

巡回調査では、寄生は確認されませんでした。フェロモントラップ調査では、伊達での誘殺時期がやや早く（図6）、誘殺数は平年より多い状況でした。成虫の飛来が6地点中4地点（伊達、新地、会津美里、猪苗代）で確認されています。ほ場をよく観察し、発生が見られた場合には防除を実施してください。

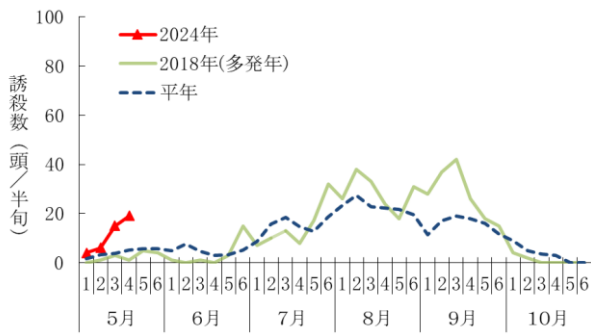


図6 フェロモントラップによるオオタバコガ誘殺状況 (伊達市保原町:キク)



写真1 果実を食害するオオタバコガ

注意が必要な病害虫

■タバココナジラミとトマト黄化葉巻病

本病はウイルス病であり、タバココナジラミの媒介により感染します。汁液伝染、種子伝染、土壌伝染はしません。また、オンシツコナジラミ等による虫媒感染はしないため、媒介虫であるタバココナジラミの防除を徹底することが重要です。

本病の発生を認めた場合、タバココナジラミの侵入・脱出防止を心がけ、ほ場内での発生密度が高くないように発生初期から適切な防除を行ってください。また、未発生地域においても、購入苗等により持ち込むおそれがありますので注意が必要です。

病害虫防除所HPに掲載している病害虫防除情報「注意喚起 黄化葉巻病 (TYLCV) のまん延防止対策」、病害虫ライブラリー野菜花き類「コナジラミ類」も御覧ください。



写真2 タバココナジラミ成虫



写真3 タバココナジラミ老熟幼虫、蛹



写真4 TYLCVに感染したトマトの症状



写真5 トマトの着色異常果（バイオタイプQ）

- 情報内容への質問や要望は、福島県病害虫防除所まで御連絡ください。

Tel:024-958-1709 Fax:024-958-1727 e-mail:yosatsu@pref.fukushima.lg.jp